

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.7.15 No.235 連絡先 FAX 042-555-1911



12日は日曜日なのに RC-135、KC-135、KC-10A、C-17A 離着陸多し

7月12日は、沖縄から台風避難で横田に飛来していたのか 偵察機のRC-135S コブラボールとRC-135U コンバット・セントが離陸しました。KC-135も4機離陸、2機着陸、KC-10やC-17Aも着陸しました。



7月5日の日曜日は、横田基地見学の方が見えましたが、飛行機の姿も見えず、「日曜日だから」とあきらめたのですが…。(写真：コブラボール)

米連邦航空局の飛行点検機 ローパスや相模原市・群馬県あたりを飛行



7月11日(土)、米連邦航空局の飛行点検機 CL604(N89)が10時頃から、滑走路をローパスしたり、横田基地の南方(相模原市あたり)をぐるぐる回り、後半は横田基地の北方(群馬県あたり)をぐるぐる回っていました。

7月7日に飛来した米軍嘉手納基地のMC-130H 3機が離陸。C-17Aの出入りもありました。



イラク仕様(空色)のC-130が飛来

7月10日、9時14分イラク仕様(空色)の航空自衛隊・小松基地のC-130が着陸、夕方(4時頃)離陸しました。

この日も横田基地見学の方がいて、空色のC130、コブラボールもいた、と報告がありました。

CV22オスプレイの横田配備計画の問題点は何だろうか

「米国政府から日本政府に対し、2017年(平成29年)後半からCV-22オスプレイを横田飛行場に配備する旨の接受国通報があった」という日本政府の発表があったわけですが、米国政府の狙いや、問題点は何なのか、考えてみたいと思います。

◎ 横田基地に配備されるのはCVオスプレイ10機です。何かに替わって配備されるのではなく、特殊作戦機CVオスプレイ10機の増強だけです。

さらに、外務省・防衛省の『説明資料』にも書いてありませんが、400人規模の兵員・軍属が新編配備されることです。横田基地強化以外のなにものでもありません。この特殊作戦飛行隊は、特殊作戦部隊を敵地奥深くに運ぶ長距離侵攻作戦や捜索救難など行います。

◎ 実際に作戦で、CV22を使って侵攻する部隊は、沖縄の特殊作戦部隊と言うより、米本土からのデルタ・フォースや、シールチーム6、陸軍レンジャー連隊などのより危険な任務を担当する部隊となるようです。特殊作戦任務ではCV22は、山岳地帯での夜間飛行や地形追従飛行などで進入し、パラシュート降下やファストロープ降下などで、特殊作戦部隊を投入します。

◎ 横田基地に配備することで、北富士、東富士、関山、相馬原など、首都圏の山岳地帯にある演習場を、低空飛行、離着陸訓練で使用できます。パラシュートの降下訓練は横田で実施で

きます。東富士演習場には、自衛隊の市街地戦闘訓練施設もあり、特殊作戦部隊が作戦遂行のため事前に、1ヶ月、2ヶ月かけての訓練をするための条件がすべてそろっています。

◎ 横田基地に隣接してジェットエンジンの開発、製造、修理が可能な IHI(石川島播磨重工業)瑞穂工場があり、厚木には海軍のあらゆる航空機の部品供給、修理ができる西太平洋艦隊即応センターがあり、厚木基地に隣接して世界各地から米軍の P3C が送られてきて修理する日本飛行機の工場もあります。陸上自衛隊木更津駐屯地には、オスプレイの整備拠点誘致が狙われ、仮に日本が落札できなくても、自衛隊が購入したオスプレイの整備施設を設置する可能性は高く、オスプレイそのものの整備も可能な条件があります。

◎ 航空総隊司令部(横田基地)内の航空作戦調整センターは、米軍がすべての軍機、多国籍の航空部隊を指揮できる AN/USQ・163Falconer (ファルコナー)と同様の指揮・統制兵器システムが導入され、世界各地の同様のシステムとネットワークでつながり、情報を共有して作戦が可能な体制になっています。特殊作戦に不可欠な航空支援を行う日米共同の指揮・統制システムがあるということです。

◎ CV22 の横田基地配備計画は、米軍のアジア重視政策のもと、インド・アジア・太平洋地域での緊急事態、有事に即応するための特殊作戦部隊の訓練・投入拠点として横田を利用する米軍の側の、明確な意図のもとに計画されたものだと考えられます。

◎ 今回のオスプレイ配備は単に CV22 が来るだけでなく、あくまで「1個特殊作戦飛行隊」の配備です。部隊の配備は駐留する基地を拠点とした日常的な訓練を実施します。

沖縄駐留の特殊作戦部隊や海兵隊は、一定期間にオスプレイや C130、MC130、KC130 を使ったパラシュート降下訓練などの実施が義務付けられているので、当然、訓練が実施されます。

同時に、航空機は航空機の側で、作戦任務に応じたパイロットや搭乗員の技能の維持・向上のための独自の訓練が必要になります。CV22 の搭乗員訓令には、日常的に実施するシュミレーター・実施飛行の訓練の頻度などが記されています。たとえば、錬度に応じて半年間の飛行訓練が決められており、地形追従飛行や戦闘機動訓練での最低飛行高度なども決められています。

横田基地では、地上部隊との共同訓練も 2012 年以降、頻発しています。陸軍グリーンベレー、空軍パラレスキュー、海兵隊偵察大隊がパラシュート降下を実施しました。関東一円では、横田基地所属の C130 輸送機の低空飛行訓練空域を設定し、日常的に夜間も含めて低空飛行、編隊飛行訓練を実施していますが、CV22 が同様の訓練を実施する可能性は極めて高いのです。

◎ 横田基地へのオスプレイ配備計画は、米軍が世界での緊急事態に対応する拠点として、日本を強化していくことの一環であり、それは、横田基地を通じて自衛隊や日本政府、さらに自治体や企業、国民を含めて、米軍の戦争に協力させる「戦争する国づくり」に直結するものです。

安倍内閣の「戦争する国づくり」阻止のたたかいと、CV 22 オスプレイ配備反対の運動を強めていきましょう。(「平和運動」6月号 佐藤つよし氏「小論」を一部引用、参考にしています。)

7月19(日)、第76回横田基地撤去の座り込みにご参加を!

「オスプレイの横田基地への飛来・配備に反対します」の署名活動始まる

オスプレイ横田配備反対連絡会(横田基地問題を考える会、横田基地の撤去を求める西多摩の会、横田基地もいらない市民交流集会実行委員会、横田・基地被害をなくす会、第2次新横田基地公害訴訟原告団、第9次横田基地公害訴訟原告団)が取り組んでいます。(No. 235 の裏面)